

研究報告書

ASEAN諸国の大学等における安全衛生教育の実態調査及びミャンマー国を例とした
安全衛生教育カリキュラムの開発と試行に関する研究
総括研究報告書

研究代表者 田中寿郎 愛媛大学大学院理工学研究科教授

研究要旨：ミャンマーの大学で日本式の安全講習会を開催するため、2018年度試行用オリジナルの英語教材を作成し、講義を行った。さらに、ラオス及びタイの3大学における安全管理及び安全教育の実態調査を行った。

研究分担者

伊藤和貴	愛媛大学	教授
ルース・バージン	愛媛大学	教授
岡野聡	愛媛大学	助教
宮崎隆文	岡山大学	教授

者がミャンマーでの試行用カリキュラムを作成し、英語教材を作成した。これを用いて、ミャンマーの工科系3大学で教員向けに講義を行った。

この内については、2018年年度、国際会議と国内会議で発表を行った。

A. 研究目的

1. ミャンマーの工科系大学で、日本式の労働安全衛生に関する講義を継続的に開講し、日本的な安全衛生習慣を持った技術者を育成する。
2. ASEAN諸国の大学における実験室の安全を含む労働安全衛生に関する教育の実態を調査するとともに、本プロジェクトの成果を高等教育機関における安全衛生教育の国際会議（The Asian Conference on Safety & Education in Laboratory）で成果を広める。

2019年度には、講義を行った後の聞き取り調査結果を参考に、カリキュラムや教材の改善を行い、再度教員向けに講義を行い、再度問題点を明確にし、2020年度に完成を目指す。

さらに、ASEAN諸国の大学での安全管理と安全衛生教育の実態調査を開始した。最終年度に取りまとめて公表する。

B. 研究結果

目的を達成するために次の計画に沿って実施する。

2018年度	安全衛生教育教材とカリキュラム開発 ASEAN諸国の調査と国際会議での発表
2019年度	ミャンマーの大学において講義の試行 と改善および現地大学の指導者の育成 ASEAN諸国の調査と国際会議での発表
2020年度	労働安全衛生講義の本格実施 ASEAN諸国の調査のまとめと国際会議で 発表

2018年度の試行カリキュラム開発においては、問題は2つある。一つは、社会に労働安全衛生の概念が定着していない社会において、どのように安全文化を根付かせるかであり、もう一つは、教育する内容の選定である。そこで、愛媛大学で初任者や学生教育用に用意している安全衛生カリキュラムを基本に、研究分担

C. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表
 1. The development of occupational safety and health lectures for technological universities in Myanmar, T. Tanaka, K. T. Lwin, K. Ito, S. Okano, R. Vergin, M. Kawakami and T. Miyazaki, ACSEL2018(OIST), 2018/11.
 2. ミャンマーの工科大学等における労働安全衛生講義カリキュラムの開発と試行、伊藤和貴、田中寿郎、宮崎隆文、R.C. Vergin、岡野聡、研究実験施設・環境安全教育研究会、東京大学、2019/03

D. 知的財産権の出願・登録状況 なし